

平成 28 年度第 1 回 守口市まち・ひと・しごと創生委員会  
議事録

日 時 : 平成 28 年 6 月 14 日 (火) 14:00~16:00

場 所 : 守口市教育センター 4 階会議室 1

出席委員 : 10 名

眞鍋昇委員、山口行一委員、赤堀彰則委員、大森康二委員、中堀  
恭平委員、石井貴委員、佐竹雅幸委員、岩佐聖二委員、長谷川敦  
子委員、吉岡典昭委員

欠席委員 : 3 名 (南口哲也委員、大谷英理子委員、瀧川光治委員)

傍聴者 : 2 名

◎委員長 ○委員 ●事務局

## I.開 会

### 1.委員長挨拶

#### ◎委員長

それでは、平成 28 年度第 1 回守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開  
催させていただきます。

委員の皆さんにおかれましては、何かと御多用の中、お集まりいただいて  
本当にありがとうございます。

本日、議事に入ります前に、本委員会に委員が参加していただいていたんで  
すけども、会社の御都合で新たにパナソニックから委員に参加していただく  
ということで、御挨拶をお願いしたいと思います。

#### ○委員

後任として、この 4 月 1 日から本社総務部に着任いたしております。業務  
の引き継ぎということで、この委員会も引き続いて私のほうで担当させてい  
ただくことになりましたので、どうぞ皆さんよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

◎委員長

どうもありがとうございます。どうぞよろしく申し上げます。

最初にちょっと一つ、事務局からの依頼のお願いがございまして、発言していただくときに手を挙げていただいて、私のほうから委員の名前を申し上げて、それから発言していただくということでお願いしたいと思います。

それでは、本日の出席委員の数ですね、委員の数を報告していただきたいと思います。

事務局お願いします。

●事務局

御報告申し上げます。本日の出席委員は定数13名中10名の出席でございます。

以上でございます。

◎委員長

どうもありがとうございます。これは、委員会の条例第5条第2項の規定がございまして、13名中10名出席していただいているということで、定数に達しておりますので、会議は成立しています。

2.前回の議事録について

◎委員長

次に、前回の議事録の確認を進めさせていただきたいと思います。

事前に配布したもののから修正点もございまして、事務局から説明をお願いします。

●事務局 (議事録の訂正について説明)

◎委員長

事務局から説明いただきましたけども、資料につきまして、あらかじめ皆

さん目を通していただいているかと思うんですが、何かさらに修正とか、そういった御意見はございますでしょうか。

特にございませんでしょうか。

そしたら、特に異議はないということで、修正したものを議事録として載せさせていただきたいと思います。

この件につきまして、前回佐竹委員と長谷川委員に署名委員をお願いしておりますので、署名をお願いしたいと思います。

## II. 議題

### 議題 1. 報告

#### (1) 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る平成 28 年度において実施した取組等について

##### ◎委員長

それでは、前回の議事録の確認を終えまして、きょうの議事について進めさせていただきたいと思います。

まず、お手元に配布させていただいてます平成 28 年 3 月に策定されました、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、平成 28 年度に実施する事業につきまして、資料に沿って事務局に説明していただきたいと思います。

##### ●事務局 （「守口市不妊検査・治療費助成事業の概要」説明）

##### ◎委員長

どうも、ありがとうございます。事務局からの説明がございましたが、これにつきましては、委員の方々から何か御意見ございませんか。

委員は、これまで子育て支援センター等で子育て世帯に対する支援の経験がたくさんおありかと思えますけれども、こういった支援につきまして、何かお考えございませんか。

##### ○委員

事務局にちょっと質問があるんですけど、この不妊治療の助成の申し込みというのは、どれくらい今あるんでしょうか。

◎委員長

事務局お願いします。

●事務局

こちらにつきましては、28年度今年度実施を予定しておりますが、現在、制度の整備中ございまして、実際には今から市の要綱を制度化いたしまして、できましたら7月1日以降に制度を始めさせていただこうとしておりますので、申請自体は現在まだ受け付けておりません。

○委員

7月1日からですよ。広報にもう載ったんで、それについていつからっていう問い合わせとかもないですか。

◎委員長

事務局お願いします。

●事務局

現在、担当課のほうから報告は受けておりませんが、医療機関のほうには、その実施予定はお伝えしておりますので、その予定で医療機関でも、準備のほうは整えていただいているというふうなお話は聞いております。

○委員

これから実施していくということで、広報をしっかりといただければと思います。

それと不妊治療について、少しお話させていただくんですけども、やっぱり心理的な負担が大きいと思うんです。治療には長期間かかるということで、助成していただくというのはすごい助かりますし、一歩前進かなと思う

んですけど、精神的なストレスの軽減のためにも、不妊治療をされている方同士で会えるような場を設けていただいたりするといいのではないのでしょうか。また、早くから高齢出産のリスクなどを学校等で、性教育に盛り込んでいただいたら、少し早目に結婚しようと考えられる方も増えるんじゃないかなと思います。あと、セミナーをやっていただいたりすることで、精神的なフォローができるかなと思うので、意見としてお話をさせていただきます。

以上です。

◎委員長

今大阪はそういうカウンセリングというのは、府も含めてやっていないんですかね。

○委員

医療機関によるみたいですがね。

◎委員長

それぞれのクリニックがやってるんですかね。

○委員

なかなかプライバシーの問題とかもあって、本人から聞けないという部分もあるみたいなんですけど、病院との信頼関係でそういう講座とかを行ってはるってことなんですけど、守口も結構これから不妊で悩む方って出てくるって思うんです。私も知り合いの方でやっぱり不妊治療をした方がいらっやって、かなり辛かったみたいなんです。精神的な面のフォローっていうのがすごい大事だと思いますんで、助成も大事なんですけど、そちらのほうのフォローとかサポートもしていただけたらなと思います。

◎委員長

事務局にお伺いしたいんですけど、これは現実にはその市民の方が手を挙げることには最終的にはなるんでしょうけども、やっぱりクリニックのほう

から連絡がきて、市のほうが動き出す、そういうイメージなんですか。  
事務局どうぞ。

#### ●事務局

先ほどの流れの中で説明させていただきました。まずは、御自身で医療機関等に行って検査を受けていただくという中で、そのクリニックで守口市ではその検査及び治療についての助成があるということの御説明はいただけると思います。ただし、今委員おっしゃったとおり、当然検査に行っていたら前段でも、広報を周知徹底して、助成制度がありますので心配されてるような、御夫婦の方にできるだけ検査に行ってください、出生率の向上につなげていければなと守口市としては考えております。

#### ◎委員長

ありがとうございました。

いきなりなんですけど、委員、御社では非常に広く介護とかいろんなサービス提供されてると思うんですけども、こういった不妊とかはあんまり関係ないのかもしれませんが、今後はこういったことは考えられてるんですか。

#### ○委員

弊社においては、乳がん、子宮がんと言った女性健診は行っているのですが、不妊健診は、行っていません。今後そういう予定があるかどうかはわかりかねますが、少なくともそういう話は今はまだ出てないかと思います。

#### ◎委員長

やっぱりこういったことは、その企業にしても非常にプライバシーにかかわってくるし、一つ間違うと、いろいろパワハラとか言われる可能性もあるかもしれないですかね、難しいかもしれないですね。

#### ○委員

確かに、乳がん、子宮がんといった女性特有の病気に対する健診は積極的

に受診するように、会社からの支援、助成金みたいな形で出るようになって  
いるのですが、プライバシーに関わる不妊治療というところまでは及んでは  
ないと思います。

◎委員長

これでも、不妊治療って実は半分以上は男性側に問題があるんですよね。  
昔から女の人が悪いっていうような前提で話ができてる場合が多いですね。  
でも実際は割合から言うと、多分男性側に原因がある場合が実は多いと思う  
んですけどね。

○委員

生殖に適した年齢があるみたいで、25歳から35歳くらいに産むのが一  
番子供にとっても、お母さんにとってもいい時期の出産らしいですけど、な  
かなか晩婚化が進んでますんで。

◎委員長

ほかに委員の方から、こういった公的な援助について、支援といいますか、  
何か御意見、お考えどうでしょうか。

委員どうぞ。

○委員

金額について気になるなと思うんですけど、不妊治療は1回当たり幾らく  
らいかかるのかっていうのは、わかりますでしょうか。

◎委員長

事務局お願いします。

●事務局

こちらにつきましては、現在各医療機関におけます、保険適用されるか、  
もしくは自費診療されるかというので非常に大きく変わってきてまして、とい

いますのも今、委員おっしゃったように、精神的、肉体的負担というのは、当然日数的な問題もございまして、混合診療だと保険適用できませんので、例えばある診療項目を同じ日にやってしまうと、もう一つの検査項目が保険適用外になってしまう。ところがそれを分けて検査するとなると、次の日にくるのがやはり負担になるということで、合わせて検査される場合には、片方が保険適用外になってしまう可能性があります。そういったものも考慮に入れない場合、保険適用で基本的に診療していただけるというような前提に立った場合には、先ほど申し上げました、一般的な治療を受けていただく際には、人工授精等々にまでやっていただいてかかるのが大体10万円程度というのが、担当課との間では話をさせていただきまして、制度設計をさせていただいております。

以上でございます。

#### ○委員

通常何回くらいかかる。

#### ◎委員長

事務局お願いします。

#### ●事務局

こちらにつきまして、特に人工授精のほうですと、基本的には5回から6回までやっていただきますと、それ以上確率は統計的に上がらないということです。一般的な医療機関では、それ以降に特殊不妊治療に移られるとのことですが、ただ、それはお医者さんの判断によりますので、3回で特殊不妊治療に移られるっていうのも、御夫婦とのお話会の中でパターンとしてはあり得るということも、担当課とお話の中でさせていただいております。

以上でございます。

#### ○委員

ということは、大体50万円くらいかかるうちの、5万円くらいを助成し



ますというになるんですか。

●事務局

先ほど申し上げました、一般不妊治療におけます人工授精、こちらを受診いただくところまでで、大体自己負担、保険適用していただきますと10万円。問診を受けていただいて、一般の不妊検査をしていただいて、そこからタイミング療法もしくはホルモン療法、なおかつ人工授精を受けていただいて、大体10万円くらいの感じで考えられるのではないかとこのところからの制度設計になっております。

◎委員長

そうしますと、大体上限額5万円っていうのはおおむね半額の助成であるというふうな理解でいいわけですね。

●事務局

はい、そのとおりでございます。

◎委員長

守口市の活性化ということで、若い方が結婚したあと出ていくケースも結構多いんだということで、そういう中で子供が生まれてお子さんの保育とか、そういったことの支援も重要なんだろうけど、そのもう一つ前に踏み込んだ支援ということになると思うんですが、そういったものがあればここに定住して、ここで子育てをしていったらどうだろうというような考え方になればいいなということかと思うんですが、委員の方々何かこれについて、御意見もしございましたら。

ほかに御意見がございませんようでしたら、この事業は推進していただくということで、事務局を通じまして、先ほど幾つか意見が出ましたので、そういった議論も踏まえまして、守口市でより有効な形で実施していただくということでお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

## 議題 2. 意見交換

### (1) 平成 28 年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について

#### ◎委員長

それでは、平成 28 年度のこの委員会の進め方につきまして、御議論いただきたいと思います。

昨年度の委員会で、今年度のスケジュールは大体概要はこのくらいでいいんじゃないかというお話があったかと思います。それにつきまして、念のためにもう一度事務局から説明していただきたいと思います。

事務局お願いします。

#### ●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生委員会スケジュール等について (案)」説明)

#### ◎委員長

この市長に提言等というのは、具体的にはどういう形になるのでしょうか。事務局のほうから説明いただければ。

#### ●事務局

昨年度におきましては、この当委員会におきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略、こちらの策定に向けてということで大きな議題がございました。それに向けましての答申というのは皆様方のほうでおまとめいただきまして、委員長のほうから市長に手交いただきましたが、今年度の部分に関しましては、この提言といいますのは、答申という形でお出しいただくのも一つですが、また委員長のほうとも調整させていただきまして、今回の議事録その中から御提言いただきましたものを取りまとめて、この事業を推進していくにあたって、事務局であります企画課から全庁的な調整を図っていきたいと今回は考えております。

以上でございます。

## ◎委員長

ありがとうございます。事務局からのスケジュールも含めて説明がございましたが、この説明も含めまして、何かこのスケジュールや内容について、御意見ございますでしょうか。

昨年、当初お話し合いさせていただきましたように、ちょっと一月くらいずれちゃったということがございますけども、おおむね予定どおりかと思うんですが、それでは、平成28年度のスケジュールこの議論も踏まえまして、進めさせていただきたいというふうに思います。

当委員会から守口創生に向けまして、具体的な取り組みのアイデアと今回提言するための議論を進めさせていただきたいと思います。事前にお手元に配布させていただきました、平成29年度守口創生に向けた検討候補対象事業というものがございます。これをごらんいただき、これらの資料は総合戦略に掲げます取組のうちの主なもの限ってですね、まとめたものですが、これにつきまして、事務局から説明させていただきたいと思いますが、お願いできますでしょうか。

- 事務局（「平成29年度守口創生に向けた検討候補対象事業 他市取組内容」説明）

## ◎委員長

非常に多くの面にわたって、いろんな他の市の取組が紹介されておりますけども、委員の先生方からこれにつきまして、あるいはこれに基づいて、守口市でこういうことはやったほうがいいのか、そういう御意見がございましたら、御発言をお願いしたいと思います。

このいただきました、配布させていただいてます資料の順番に、あんまりに全体にという話がなかなか拡散してまとまらないかと思います。一つ一つ事務局からの説明をいただきながら議論を示させていただいて、先生方の知恵を拝借したいと思います。

まず一番目、1ページですけども、若い世代が出会う機会創出の支援とい

うのがございます。これにつきまして、事務局のほうから説明いただきたい  
と思います。

事務局をお願いします。

## ●事務局

それでは、話にありました若い世代が会える機会創出の支援ということで、  
守口市におけます現状を説明させていただきます。

まず、いわゆるここに書いてあります婚活支援のようなものにつきまして  
は、昨年度のこの当委員会での御議論の中でも、またアンケート結果、書いて  
いただいた中でも当然賛否、守口市つまり地方公共団体が実施すること  
についての賛否というのもございました。ただ、地方創生に向けました取組と  
して、新聞報道等でも他市でのこういった婚活支援といった活動というのも  
目立ってくるような形になっております。その中で守口市におきましては、  
過去には例えば商工会議所様であったり、青年会議所主催のいわゆるそうい  
った対象を限ったような婚活支援イベントというのは開催されてきたという  
ような経緯、前回の昨年度の会議の中でもお話がございました。

また、本市におきましては、その大阪市に隣接しております都市部という  
ような位置づけからも、いわゆる現在話題にも上っております「街コン」と  
いうようなものも、一定程度の規模で開催されてるといような情報も、こ  
ちらでは答えております。

また、市内にも結婚相談所のような民間事業者さんもあられるんですけれ  
ども、こちらも、一定の費用負担が必要となりまして、かなりの自己負担が  
必要になっておられるというようなこともあります。昨年度事務局のほうで  
実施させていただきましたアンケート結果、もしくは市民の方へのグループ  
インタビューの中でも、実際に利用されておられた方、経験された方の話の  
中で、例えば登録して実際パーティーに参加されるまでに、20万円から3  
0万円自己負担が必要になってくるというふうなお話もあったというふうに  
聞いております。

今確認の中で、昨年度事務局のほうで行わせていただきました市民アンケ  
ートの中でも、未婚の方で7割以上は結婚されたい、何らかの形で結婚した

いというような御意見をいただきましたが、その7割の方のうち6割の方は、結婚するにはよい人にめぐり会うというのが条件ですというような御意見がございました。またそのアンケートで市が行う婚活支援には、全体の4割の方が賛成されておりまして、余りいいと思わない、仕方がない、一定程度の賛成の意見まで含めると、過半数の方賛成というような結果もございました。

また、婚活支援の中で行政が行うとして、最も参加したいものというので、出会いの場の提供というのが42.9%、4割以上の方が賛同されておったというような結果になっております。

現状といたしましては、以上でございます。

#### ◎委員長

これにつきまして、委員の方々から何かお考えございますでしょうか。

#### ○委員

質問になるんですが、今回この平成29年度の事業というのは、昨年度検討した、こちらの総合戦略の基本目標に対応しているのでしょうか。

◎委員長 事務局お願いします。

#### ●事務局

お手元にお配りしております、守口市人口ビジョン、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版のほうを見ていただきますと、3ページ目に記載させていただいております、基本目標1、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるという基本目標に対しまして、①番目結婚したいと思う若い世代活動を支援する、その中での取組として、若い世代が会える機会創出の支援というのが位置づけをさせていただいております。こちらの事業というふうな位置づけをさせていただいております。

以上でございます。

#### ◎委員長

昨年も委員会で非常に総花的にたくさんの意見をいただいて、羅列という言い方よくないんですけど、全部同時にできるわけではない。どれかを重点的にやっ払いこう。その中で、まずは若い人同士が出会わないといけない。前回もちょっとそういうお話はあったかと思うんですけども、例えば看護師さんの場合、割合女性が多い職場で、あるいは保育士さんもそうなんですけど、なかなか学生のときにたまたま知り合ったというケースがあればいいんですけども、職場で男性と、女性ともそうでしょうけど知り合う機会が少ないと。そういう中でチャンスができればいいなと、アンケートの要望といたしますか、そういうものもあったように思うんですね。

今回資料として、岬町、阪南市、ほかのところも上げていただけてますけども、こういったやはり同じような悩みをもたれてる方々がいるというふうな理解かと。逆にいつも出会うチャンスのある職場ですと、こういったことは問題ないんだろうと思うんですけど、割合そういう偏った職場って結構ございましてですね。

委員は多面的にお詳しいとは思いますが、お考えはいかがでしょうか。

## ○委員

自分の今までの発言を思い出してたんですけど、行政が積極的にかかわるのは、そんなに必要はないんじゃないかとしてきたと思うんです。それは、やっぱり優先順位が、そんなに上位にくるものじゃないなというような思いで発言させてもらいました。

確かに市でやっていただくことができるならば、やっていただきたいと思うんですけども、男女がいつも出会うチャンスがある職場、そうでない職場というものは今も昔も関係なく当たり前の話でありますし、また、結婚というのはいい人と出会うことが重要ということも当たり前の話です。一番結婚に踏みきれないというのは、収入、職の問題です。仕事がしっかりとできて、収入が一定以上あれば、結婚に進んでいくものだと、何かのデータでも聞いたことありますし、私もそうだと思ってますので、婚活のこういうイベントだけをね、頻繁にやっても果たしてどれだけ、効果があるのかっていうのを

疑問に思ってます。結婚しても守口市に果たして住み続けるのかという点も疑問に思いましたので、優先順位を上位に持ってくるのはどうかなと思いましたが。

この対象事業のプランを見せていただいております。お聞きしたいのは、岬町の場合は、入会時にかかる費用これ全額負担して、金額が明らかになってますけど、この阪南市は行政は、どれほど金額を出されてるんでしょうか、開催を支援していますということですので、これくらいでしたら、守口市も確か商工会議所さんとかもされてたので、この阪南市の内容でしたら、守口市でもこういうサポートをとるのは、もう既に出てきてるんじゃないかなと思うんですが。

以上です。とりあえずここまでお願いします。

#### ◎委員長

どうもありがとうございます。これにつきましては、事務局のほうからこちらの知見がありましたらお願いします。

#### ●事務局

阪南市のこちらの取組につきましては、申し訳ありませんが、ちょっと現地で阪南市様のほうに確認した部分ではございませんでして、インターネット等々の情報から確認させていただいておりますので、ここでのいわゆる阪南市さんの関わり方ですね。共催として例えばお名前、もしくは場所の提供、もしくは一部費用負担されてるのかっていうところまでは申し訳ございません、現段階で不明となっておりますが、こちらもそういった情報の部分で、青年部、商工会議所さんと青年団の主催で開催されておりますのを、阪南市様が支援しているという状況というのを取りまとめさせていただいた次第でございます。

以上でございます。

#### ◎委員長

今、委員からも御発言ありましたように、この例を挙げていただいているの

をみますと、一つは民間のそういった事業者が婚活というんですかね、お見合いをやってる、お金で幾らまで入会金をサポートするとか、そういう形が一つあるかと思います。

もう一つは青年会議所、NPOなどの活動に対して、市が共催とか支援とかいう形を出してるという形なんでしょうけども、なかなか効果がどうなんだろうという御意見もありましたが、やはり仕事によってかなり偏って出会うチャンスがない職場が多いっていうのも事実ですしね、そのあたりは費用対効果のバランスかと思うんですが。

確かにおっしゃるようにどちらも今守口市に住んでるけども、結婚したらどっか出て行っちゃうってことは、ないとは言えないと思うんですけど、そこは次、子育て支援ですとか、先ほど話があったような不妊治療の支援とかいう形で、守口市に住んでちょうだいということになるかと思うんですけど。

## ○委員

あわせて確認したいのですが、実際にこういう岬町とか阪南市で導入されてるものが、どれだけ活用されていて、また、市民にどれだけ受け入れられてるのかという情報等はつかんでおられますでしょうか。

## ◎委員長

事務局いかがでしょうか。

## ●事務局

申し訳ございません、特に岬町の事業につきましては、昨年8月1日からの実施となっておりますので、現在まだ決算が終わったところですので、情報はいただけておりませんので、例えば申請件数何件ですとか、そういったものは今のところ把握してない現状でございます。

以上でございます。

## ○委員

もちろんよかれと思って、そうやって施策を打つわけですが、結果として



それが市民に受け入れられない、活用されないってなってしまうないように、しっかりベンチマークをして、本当に喜ばれ、活用されるような施策を守口にあった形で実施するということが、非常に有効ではないかと思います。ただし、まだ結果がでていない施策を行うとなった場合には、慎重になるべきだと思います。

#### ◎委員長

他の市町村もいろいろとやられてると思うんですけど、その成果を見てからと言うことですね。

#### ○委員

そうですね、成果の確認というのが必要ではないかと感じました。

#### ◎委員長

おっしゃるとおりです。

それと、これ僕の個人的な思いですけども、割合都市部のほういったら婚活の問題っていうのと、もう一つは極端に農村部なんかで、そこにいくと日本人の女性がいないとかそういうレベルの話になっちゃって、なかなか一概に言えない部分がございますよね。

私はたまたま山形大学っていうところの農学部にずっと講義に行ってるんですけど、そこは庄内で非常にお米の産地で、日本でも数少ない米の専業で結構豊かに暮らしてる土地なんですよね。ところが年収で言うと3,000万、4,000万の農家がいっぱいあるんですけど、日本人の奥さんがいないということで、わざわざタイのほうに、みんなで県が肩に力を入れて、お見合い旅行したりとか、笑い事じゃなくてやってますからね。そういったところとはまた違って、この守口はまだ恵まれてる地と思うんですが。

一方で、昨年アンケートをいろいろとってデータ見てますと、やっぱり職場によってはかなり男女比が偏ってて、出会うチャンスがあんまりないとかっておっしゃってる方もいますのでね。何かそのあたり、できることがあればいいかなと思いますけど、確かに費用対効果ですね。

ほかにございませんでしょうか。

14ページを見ていただいて、若い世代が感じる住宅の供給促進、結婚して住宅を持って出産するっていう一連の流れなんでしょうけども、これにつきましてでもあわせて、事務局のほうから説明をいただきたいと思います。

## ●事務局

それでは若い世代が魅力を感じる住宅の供給促進ということで、守口市におけます現状のほう簡単に御説明させていただきます。

まず、昨年度実施させていただきました市民アンケートの中でもですね、居住地選択の際には、住宅の間取り、その住宅における設備、こういったものが、二十代三十代の方では重視されてるといような結果が出ておりました。

また、守口市におけます公共施設の跡地なども含めまして、一定規模の開発としての事業でも、市内でも分譲マンションもしくは建て売りの分譲戸建てというのが多く提供されておまして、また民間事業者のヒアリングの中でも、大手の不動産情報雑誌の中では、守口市が住みやすいまちとして、非常に多く取り上げているといような話も聞いておりますので、そういった住宅供給への守口市の立地、備えております都市機能というのは、非常にニーズが高いというふうに守口市では考えております。

また、そういった中で他市では民間企業との連携によりまして、所有しております例えば公営住宅でしたり、そういったもののリノベーションを行っている団体でしたり、もしくは大学などの研究機関と連携して、そういったまちの魅力づくりの発信を行っていくといような取り組み事例も明確にしております。

以上でございます。

## ◎委員長

ありがとうございます。これにつきまして、まさに専門家と言われる委員の方がおそろいかとは思っているんですけども、いかがでしょうか。

山口先生、いかがでしょうか。

## ○委員

そうですね、受け皿として住宅供給を推進していくというのはですね、いかと思うんですけど、各市さんの取組をざくっと御教授いただければと思うんですが。

## ◎委員長

今現在事務局は、ここに資料いただいているあたりを把握してるという理解でいいんでしょうか。

事務局お願いします。

## ●事務局

こちらにつきまして、申し訳ございません、時間の関係上もそれぞれの例えば高槻市、河内長野市、たつの市のほうにヒアリング等行った結果ということではなく、一定程度インターネット等でお知らせさせていただける部分を、抽出して事務局で取りまとめをさせていただいております。

その中で、特に高槻市でありますと、いわゆる今言われてます三世代近居というようなところで、助成制度を設けられておりまして、一定程度の要件を満たす住宅の取得に関しまして、もしくはリフォームに関して、助成を行われておられます。

また河内長野市では、転入もしくは定住化の促進に向けまして、こちらも新婚世代の持ち家取得控除制度、さらにもともとやっておられましたものを拡充しまして、マイホーム補助制度というようなものを、始められておられます。

たつの市でも、本質的には同じような若者の定住促進住宅取得奨励金ということで、こちらも助成金を制度化されておられるというような形になっております。

以上でございます。

## ◎委員長

ありがとうございます。こういった大きいものになると、どうしてもお金とかローンとかが関係してくると思うんですけど、委員の目から見まして、こういった助成というのはいかがでしょうか。

## ○委員

人それぞれによるんでしょうけど、助成金ではなく、やっぱり立地の方が重要なんだろうね。僕だったらそっちかなと思うんで、正直言いますと、助成金の効果がよくわからないなと思います。

いわゆる魅力を感じる、住宅の供給促進が主であれば、魅力を感じる住宅なので、それは助成金じゃないのかなと単純に思っただけなんですけど。やっぱり住宅環境であったり、住宅そのものであったり、価格面であったり、ここにもありますけど、その前のところですかね、教育のことや、教育とか育児に関するいろんな補助のことだとか、学力向上へ向けた取組だったりとか、あとは都市そのものの魅力であったりとか、そっちのほうが大事なんじゃないかなという感じが正直します。

これを見て、最初に思った印象はそうです。これが第一優先ではないんじゃないのかなという気はしました。

助成金はあればあったでいいんだと思うんですね。守口市に家を買おうと決めた。結果的に助成金がありました。よかったってことになると思うんですけど、本当に助成金があるからそこに家を買おうということになるかなと、そういう考え方をしたんですけど。

## ◎委員長

専門じゃないですけど、河内長野市は、どっちかいうと大阪の南のほうで、そこに何か産業があるというよりは、どちらかという、ベッドタウンなのかなというイメージがあるんですけど、その場合こう一括して、30万円ほど出しますから、家を建ててちょうだいという感じですよ。

これが高槻市になると、三世代の人については少し気休め程度かもしれないけど、助成しましょうと。その市によってこういった人に住んでほしいっていうのは、確かにあるかと思うんですけども、守口なんかですと、どうい

うふうにするとより効果的なんですか。助成金はないよりあったほうがいいのか、そこが難しい問題だと思うんですけど。

委員がおっしゃるように、住みたい人がお金を積んででも住みたいとなると、一番理想ではあると思うんですけど、子育ての環境もいいし、教育の環境もいいし、住環境もいいしっていうような、そこを目指すべきとは思いますが、その一方で。

## ○委員

市のほうの現状分析の中では、三十代から四十代くらいの子育て層の守口市からの転出が多いという現状が、確かあったというふうに思います。優先順位は皆さん、今まで委員長がおっしゃったようなところはあるかもしれませんが、狙いとしてそういった層を定めるというところで見れば、河内長野市の案みたいなのがあってもいいのではないのかな。

やっぱり住まいを定めるというのは、そこにおける定住をするという意味表示に近いものだろうなというふうに思いますので、こういうふうに対象を小学校未満のお子様がいる40歳未満、ここは検討する必要があるかもわからないけど、あと居住で最低1年住んだ後に支出するような助成金があったとすれば、定住意識の向上にはつながるのではないのかな。場合によっては他の市から呼び込むことも、新しいマンション等の購入する意欲につながるのではないのかなというふうに感じました。

## ◎委員長

僕は記憶が曖昧なんですけど、事務局にちょっと確認したいんですが、昨年アンケートをとったときに、若い世代の方が出ていっちゃう、独身のときは住んでるんだけど、結婚すると出ていっちゃうというような傾向があったかと思うんですよね。これはやはり市としても事務局としても、やはりイメージとしてはそのあたりの世代へのサポートというふうに考えておられるんでしょうか。

事務局お願いします。

## ●事務局

お手元に配布させていただいております。人口ビジョンもしくは創生総合戦略に掲げております、守口市の多くの課題といたしましては、ファミリー層の転出、こちらがやはり非常に社会増減の中で大きなものをしめてるという認識のもとで、今委員長がおっしゃったようなアンケート結果に基づきまして、そういった年代の方々が一定程度居住選択の際に、住宅の間取り、設備等を重視されておるような結果が出ておりますことから、総合戦略についての取り組みの一つとして、位置づけさせていただいているというような状況になっております。

以上でございます。

## ◎委員長

ありがとうございます。これにつきまして、ほかにお考えとか御意見ございませんでしょうか。

今現在、ここに住まわれている方からの目で見ますと、こういう政策っていうのはどういうふうに思われますか。委員はどう思われますか。

## ○委員

昔から母の代からずっと住んでるんですけど、やはり守口は便利だということもありますし、買い物とかもスーパーもすごく多いですし、学校も近いというのがありますし、たくさんの魅力はあるんです。ただ、土地が高いです。便利な分、駅前とかは土地が高いから、皆さん出て行かれるというのがあるんです。一戸建てが欲しい方とかも同じです。その辺若い人、新婚世帯だけでも補助があればいいのかなと思いますけども。

## ◎委員長

委員からみますと、こういった政策っていうのはどのように感じられますか。

## ○委員

子育て世帯が家を買うときにですね、住宅の中見てますと、両親が住んでるからこの地域にしますというふうな話が割と多いんです。この高槻市なんかの親子が三世代が同居することに対して補助をしますというふうなことをしてますけど、なかなかそのおじいさん、おばあさん世代が引越しをするというのは抵抗があると思うんですけど、若い世代だけを呼び込むということが難しいのであれば、親子孫世代、そのまま呼び込んでくるようなこういう高槻市みたいな政策というのは、おもしろいんじゃないかなというふうに感じてます。高槻市のやり方ってというのが、何か応用できないかなというふうに考えております。

### ◎委員長

職場と住んでるところが比較的近いってというのは、理想かと思うんですが、委員はどうお考えですか。

### ○委員

前の会議でも何回かしやべらせていただいたものがあるかと思うんですけど、この住宅の問題を考える際に、住工混在の話がどうしても出てくるのかなと、先ほどもまちの魅力を上げることのほうが先決ではないかというお考えもあったんですけども、そこら辺のところ、きれいないい住宅を補助で建てさせていただいた横でですね、例えば工場とかがあったら、もしかしたらその人にとって、またまちの魅力が落ちてしまいますということにもなりかねませんので、行政側としましては、こういう補助金もあればいいと思うんですけども、そういったところの整理や、価格の見直しとかそういうところから考えられてもいいかなというふうに思います。

### ○委員

弊社は本社が守口にあって、守口、門真には多くの事業所が存在しますが、弊社の抱える一つの問題に単身赴任者が多いという問題があります。言いかえれば、地方から都心部に来る単身赴任者が、例えば守口とか門真に家を見つけようとしてもなかなか見つからない、京阪沿線で京橋がいいと思っても、

京橋もいっぱいなのでちょっと外れたところ、例えば関目とか、そういったところに、単身赴任者が家を構える方が多くおられますが、守口とか門真の単身赴任者向けの住宅事情というのは今どきのようになってるのでしょうか。

#### ◎委員長

それわかりますでしょうか。事務局お願いします。

#### ●事務局

不動産会社の方のほうの載せておられるデータというのは、手元にはないんですけど、感覚としてのお話だけなんですけど、一定程度不動産情報等見させていただいたら、守口、門真あたりで申し上げますと、先ほど申し上げました分譲マンション以外にも一定規模の空き地、ただしそれが分譲マンションができるほど広くないような場合には、特に地下鉄守口駅前にも、ローソンの上に建ってますような1K、1DKのような間取りの賃貸物件というのは一定程度できだしているのかなというのは感じとして思っております。

ただ、今おっしゃってるような例えば、蒲生4丁目、関目あのあたりの供給量とのバランスというところもかなりのそういったような賃貸マンションというのは、数が供給されてるというふうな認識は持っております。

以上でございます。

#### ○委員

住宅購入の助成金というものに関しまして、もちろん住宅を購入するときには、そういう助成金があればありがたい、しかし、それはどこに家を建てるかとか、購入するかというのとはまた別の問題だと思います。家庭をもっている人が家を購入する、建てるとなると、安心・安全が優先されると思います。昨今いろんな事件・事故が多いですから、セキュリティーとか、安心して暮らせるというような場所を選ぶだろうし、さっき言った単身赴任者が会社の近くで家を構えるといったときには、そういったところよりも近場を探すだろうし、それぞれターゲットを絞るとニーズが違ってくると思います。これらのことも考慮しながら施策というものを考えてはどうかと思いました。



以上です。

### ◎委員長

確かにおっしゃるとおりかと思うんですけども、なかなか守口市全体から考えると、今働いている方と、できたらそこで定住して、5年10年後にっというのはこのままだと多分、守口やがて人が住まない町になっちゃうんじゃないかって予想すら極端に言うたらあってですね、実際に子供さんが減ってしまって、小学校とか中学校もどんどん閉鎖されて、そうするともう工場の一隅のような感覚になってくると、それでいいんだろうかっていうのもあるかと思うんですけどね。

かといって、こういうふうに悪口で言うと、ばらまき行政というか、皆にお金をばらまくのがいいことなんだろうかと、これもなかなか一方でいろんな意見がございますでしょうけど、先ほど、委員がおっしゃってたように、高槻のように三世代がいいのか、二世代くらいでとどめるのか、そういったところはサポートしましょうというの、じゃあ住んでみようかというような動機づけにはなるのかもしれませんが。なかなかそういうのは難しいんですけど。単身赴任の人が家族を呼んでくれるかって、それはなかなか難しいんかとは思うんですけどね。

私も東京のほうで12年くらい単身赴任してますけど、そこに住もうとは思わない。職場が近くにあるから住んでるので、職場変われば移っちゃう。そのあたりね、なかなか難しい問題かとは思うんですけども。

短い時間で急に結論するのは難しいかと思うんですけど、ほかに御意見はございませんでしょうか。

この事業につきましても、実施するのかどうかということも含めて、そういう議論も含めまして、次回支援の提言の可能性も勘案しながらお時間をいただけたらと思います。

これ、きょう2件ほどなんですけど、もう一度何かこれはいっておきたいというような御意見はございませんでしょうか。

委員お願いします。

## ○委員

先ほどの不妊治療もそうなんですけれども、ほかでもされていることっていうこともあって、ちょっとややインパクトに欠けるのかなというふうに思います。やはりせっかくやるからには、よそにはないよっていうようなところまで踏み込んでやっていただくのが、やはりインパクトにつながりますし、強烈なアピールポイントになってくるのかなと思いますので。

例えば不妊治療の上限額ですね、今年度は5万円かもわからないですけども、ほかの市でも10万円というところもあるようですし、それ以上のところもひょっとしたらあるかもしれないですけど、ぜひですね、聞いた人がこれから守口に住みたいなというような、施策を打っていただきたいなと思います。

隣と同じことをやっても、隣と同じかそれ以下の反応しかないのかなと思いますので、やっぱりやってますっていうアピールをどんどんやっていただきたいなと、他市の方にもわかるようなアピールをやっていただきたいなというふうに思います。

## ◎委員長

僕も委員の考えは全くそのとおりだと思います。特に広報と言いますか、アピールと言いますか、2種類あって、今現在住んでる方に連絡して、こういういいことがあるよというのも一つ重要だと思うんですけども、人をここに呼び込みたいっていうのが前提としてある場合、やっぱり今住んでいない方にも発信して行って、守口に住んだらこんなええことがありますよという、大阪らしいというか、もうかりませというようなものが一つ。どうやって発信していくかということかと思うんですけど、そのあたりやっぱりFMでしようか。

意外と若い人聞いているんですよ。実はラジオを。

## ○委員

他市にもFM局ありますので、そういうところでPRしていただくのも一つなのかなというふうに。

キー局を使うのも一つでしょうし、うちを使うのも一つでしょうし、ほかを使うのも一つでしょうし、御相談にはのりますので、あれば相談いただいたら結構ですし、できる限り、内々だけではなく、やっぱり外に向かって発信していただきたいなど、注目をあびるような施策とともに、それを外に向かって発信していただきたいなというふうに思います。

#### ◎委員長

委員は若い学生さん見てて、そのあたりどう思いますか。僕なんかは60過ぎたおじいさんの世代なので、情報の取り方が昔と全然違ってきてるんじゃないかなと思うときがあるんですけど。

#### ○委員

大学生がどういう媒体を使っているかというところ、ラジオであればラジコとかインターネットのアプリを使ってる方が多いと思います。そうですね、大学生でいうとなかなか住宅を購入するというイメージは持っていないので、厳しいところはあるかもしれませんが、例えばですけれども、大学に来るに当たって、どこでどういう情報を使ってきたかということになると、不動産のネットであつたりとかするので、PRするのであればそういう媒体を使ってアピールしていくのが有効なのかなと思います。

#### ◎委員長

時間もあんまりないんですが、一点豪華主義ってということで、お金のこともあるんでしょうけど、ここをきょう2点に仮に絞りまして、ここをぱんと出すとアピールするんじゃないっていう、もしお考えがありましたら。

多分、不妊治療なんかでも、人にもよるんですけども、結構繰り返してここでやめって言われても、やめきれないところがあるかと思うんですよね。不妊治療受けようかと御夫婦の場合ですね。

僕、産婦人科の先生なんかと同じ学会でよく話をするんですが、やっぱりその先生方がおっしゃるのは、もう諦めなさいっていうのが非常に難しいとおっしゃるんですよね。今、モデルとして委員も尋ねておられたように治療

にかかる費用が50万円ですか、平均的に言えば10万円くらいなんだと思うんですけど、もっとももっとっていうことが、そういうところをずっとサポートするっていうのは一つの目玉になるのかもしれませんが、そのめちゃめちゃな金額になるわけじゃないですし、打ちどめじゃなくて、守口市に住んでる人は、守口市の市役所はずっとサポートするよって言ったら精神的に落ちつくとかというの、一つのアイデアかもしれませんし。

プライバシーの問題が絡みますから、精神的な問題は意外と難しいみたいなんですよね。だからそのかかりつけのクリニックの中だといいでしょうけどね、クリニックから外に出ると、そういうことを大っぴらにしたくないっていう方が多いみたいでね。そういった市内のクリニックの相談とか精神的なところを何かサポートするとかいうのは、一つの考え方かもしれないなと私は思うんですけど、市役所において、話し合いしましょう、お茶を飲みましょうっていうのはアウトだと思うんですけどね。

少なくとも市内でそういった専門のクリニックがあったときに、そこにこういった人を、専門の方の人件費を少しサポートするとか、そういうのは一つ提案としてあり得るかと思うんですけど、そのあたりいかがでしょうか。

僕のようなおじいさんの発想と委員のような女性の発想は違うと思うんですけど。

## ○委員

もし、不妊治療で出生率が上がったとしても、子育てしにくい環境だったら何もならないという意見が多いですよ、今は。それで待機児童の問題も起こってますし、女性も働かないといけないとか、じゃあ家にいる人は、子育て頑張っているのに何もしてもらえないのかっていうことにもなりますし。だから全体的に社会が女性に対して、子育て大変やからっていうことで男性も協力していただくとか、育児休暇がとりやすいような環境になっていかないと、この問題は多分なくなっていくかと思うんです。

だから、不妊治療も大事だし、子育てのそういう保育の現場の人材確保も大事だし、いろんなことが大事だと思うんですけど、今、北欧の子育てがすごい見直されてて、ちょっとレベル高いかもしれないんですけど、やっぱり

窓口が多過ぎると、皆さん相談に行きにくいんですね。私もそうですけど、私は近くに母がいてたんで、子育ての悩みとか母と協力しあって、主人も協力してくれましたし、乗り切って10年くらい家で子育てしたほうなんですけど、今皆さん保育所とにかく預けたい人ばかりで、家で子育てしてたら肩身が狭いみたいな、そういう風潮に社会がなってますよね。

最近、安倍総理のお話を聞いてると、税金納めてもらったほうがいいからっていうのもあるんでしょうけど、もう少し女性に対してそういう理解がある社会になっていかないといけないし、市もまたそれを目指していかないといけないと思うんです。これだけお金をここに使いますじゃなくて、こういうところは守口はよそに比べて独自の目線があるよっていうふうな子育ての政策っていうのを打ち出していけば、随分若い人はここにとどまってくれるんじゃないかなって私は思うんですけど。

フィンランドとかだったら、妊娠がわかった時点で、ちゃんと行く場所が一つ施設が決まってるんですけど、最初から就学前まで同じ保健師さんとか看護師さんが全部アドバイスとか相談に乗ってくださるので、信頼関係が長く築けるんですね。でも、やっぱり日本の今の現状だったら、この相談はあっちにいてください、これはこっちの窓口って、いろんなどころに行かされるっていうのが、一から話さないといけないし、行ったときに担当者が変わってたりするじゃないですか、すごくそういう子育ての悩みとかも打ち明けにくい環境っていうのをつくってるから、そこがもったいないなあって思ってる。いくら行政が力を入れたって、お母さんの意見を取り入れてないような、施策になってるんじゃないかなっていうのをすごく感じます。

## ◎委員長

ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。

最近、行政だけじゃなくていろんなどが数値目標、数値目標って言われる、それは決して悪いことじゃないんでしょうけども、そのときに数値化できるような、お金で金額でこれだけ助成しましたとか、補助しましたっていうと非常にわかりやすいそういったこともあって、今委員がおっしゃったようなソフト事業はなかなか数値化しにくくて、評価しにくいということも

あって、後回しになってるっていうのが、国にしてもどこにしても、場合によっては、企業のサービスもそういうところが出てきてるのかもしれないですけど。どうもありがとうございました。

そのあたりも含めまして、一番最初に申しあげましたように、8月以降にもう一度本委員会を開催させていただきたいと思います。きょういろんな御意見をいただきましたので、その議論を踏まえまして、総合戦略に掲げる取組の具体的な事業かと思いますが、そういうことについて市長に提言を行えるように、事務局とも相談しながら調整を進めさせていただいて、各委員の方々のお考えを伺いたいと思いますので、どうぞ御協力よろしくお願ひします。

次の開催につきましては、事務局のほうから日程調整させていただいて、連絡させていただきたいと思いますので、お忙しい中、きょうは本当にありがとうございました。

きょうの議事録の署名人として、吉岡委員と山口委員、お願いします。

事務局のほうから何か特に連絡ございますでしょうか。

●事務局　　ございません。

### Ⅲ. 閉会

#### ◎委員長

きょうは本当にお忙しい中、お時間をいただきまして、ありがとうございました。

これをもちまして委員会を閉会したいと思います。

以上